

主 題：生かされている目的を忘れない

聖書箇所：ペテロの手紙第一 4章1－6節

主に対して忠実に歩んでいたキリスト者に対して「迫害に負けずにこれまでのように歩み続けなさい」というのがペテロの励ましであり、勧めです。それは4章にも続きます。

今日の箇所からペテロは二つのことを教えます。

1. イエスの生涯をいつも覚えていなさい 1－3節
2. 神のさばきを覚えるように 4－6節

☆ペテロの励まし

A. イエスの生涯をいつも覚えよ 1－3節

1－2節「このように。キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。こうしてあなたがたは、地上に残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。」

1. 神のみこころに完璧に従った

イエスは神のみこころに完璧に従われました。ヨハネ6：38を見ると「わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行なうためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行なうためです。」とあります。また、ピリピ2：6－9ではパウロがイエスについてこのように証しています。「6キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、7ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。8キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。9それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。」。神に従順であったと言います。

2. その模範に倣う

私たちにイエスを模範としてその歩みに倣うようにと勧めるのです。

1) イエスと考えを同じにする

1節に「同じ心構えで」ありますが、これは考え方、感じ方を同じようにという意味です。イエスの考え、思いを共有することです。イエスがどのような迫害の中にあっても神のみこころに忠実であり続けたように、私たちキリスト者も人生において同じように考えて、迫害に怯むことなく、大胆に且つ希望をもって忠実に歩み続けて行くことへの励ましです。

2) その考えを持ち続ける

そのために、「武装しなさい」と言います。これは「このような思いで自分を守りなさい、あなたの武器として身につけなさい」ということです。このような態度を受け入れるようにとの勧めです。

3. そのわけ

4：1に「肉体において」とありますが、原語ではその前に「なぜなら」ということばがあります。これは「武装すること」の大切さを説明するからです。

◎どうして忠実であるべきなのでしょう？ なぜ、みこころに従うことが必要なのでしょうか？

(1) それが勝利の生活のカギであるから

「罪とのかかわりを断ちました」と完了形で書かれているのは、信者の立場、状態を強調しています。ローマ6：7に「死んでしまった者は、罪から解放されているのです。」とありますが、「死んでしまった者」とは罪赦された者のことです。その者はもう罪の奴隷ではなくなって神のものとなったということです。それはもう罪を犯さなくなったということではありません。よりいっそう罪を憎み神を愛する者へと変えられていくために、神は私たちに様々な試練を与えられます。「肉体において苦しみを受けられた」とありますが、これはキリストだけでなくクリスチャンも神に忠実に歩み続けている人は、数々の苦しみ、試練を経験するが、そのような時も主に信頼して歩むことによって、ますます信仰が強められて行く、そして、その結果、罪からますます離れるようになるということです。苦しみ・困難が襲ってもその中から勝利を得るのです。みことばに従って行くときこそ本当の喜びがあるからです。

(2) それが本当の幸せのカギであるから

みこころに従うことは最高であると、ダビデは詩篇40篇でこのように言います。「私は切なる思いで主を待ち望んだ。主は、私のほうに身を傾け、私の叫びをお聞きになり、：2私を滅びの穴から、泥

沼から、引き上げてくださった。そして私の足を巖の上に置き、私の歩みを確かにされた。 3 主は、私の口に、新しい歌、われらの神への賛美を授けられた。多くの者は見、そして恐れ、主に信頼しよう。 4 幸いなことよ。主に信頼し、高ぶる者や、偽りに陥る者たちのほうに向かなかった、その人は。 5 わが神、主よ。あなたがなさった奇しいわざと、私たちへの御計りは、数も知れず、あなたに並ぶ者はありません。私が告げても、また語っても、それは多くて述べ尽くせません。 6 あなたは、いけにえや穀物のささげ物をお喜びにはなりません。あなたは私の耳を開いてくださいました。あなたは、全焼のいけにえも、罪のためのいけにえも、お求めになりませんでした。 7 そのとき私は申しました。「今、私はここに来ております。巻き物の書に私のことが書いてあります。 8 わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」

切なる思いで主を待ち望んだダビデの祈りを神は聞いてくださいました。「祈ったから神は聞かれた」ではありません。ダビデは問題の中、祈りながら忍耐をもって主の成されるみわざを期待しました。そして主は、彼に解決を、励ましを与えられたのです。彼は主の成されたみわざを称えるだけでなく、信頼することの確かさ、すばらしさを告げるのです。その主に対してなすべき最善のことは「いけにえ」よりも「主に対して忠実に従うこと」です。みことばによってみこころが示されるのです。そして、彼はそれを実践することを心から願うのです。

⇒私たちの完全な模範であるイエスの歩みがそうであったことから、この「みこころに従って生きること」が最善の生き方であることがわかります。

その証明：

- ・神だけがわたしたちの本当の必要を知っておられるお方。
- ・神だけが未来を知っておられるお方。
- ・神は最善しか成すことのできないお方。

多くの人はみこころに従えば何か犠牲を強いられる、また、どこかへ送られるかもしれない、恐ろしい、辛いことが訪れるかもしれない、だから、求めないと言います。しかし、神は私たちのために《救い》を備えてくださったのです。

- ・神は私の弱さを知っておられるお方。  
だから「神に頼って生きる」ようにと言われるのです。
- ・神は目的をもって私を救ってくださいました。

神の目的は神の栄光を現わすことです。神がどんなにすばらしいお方かを明らかにするのです。それなら、神は私たちにどのように生きるべきかを教えてくださるはず。それは「みことば」です。みことばこそが私たちのガイドラインです。

- ・神は私に対して計画をもっておられる。

神は私を特別な者として造られ、そのように扱ってくださいます。この世に私という存在はたった一人です。そして神は私に特別な賜物を与えられました。その与えられた賜物は他のだれのものとも同じではありません。神は私たちにこの地上での決められた時間（いのち）を与えてくださり、そして、この地上での生活においてどのように生きるべきかを当然教えておられるのです。

### （3）これが価値ある生活のカギです 2 節

人生を無駄に過ごさないためのカギです。2 節には救われる前の生き方と救われた後の生き方が対比されています。

・救われる前＝この世的な考えをもって生きる人生でした。「人間の欲望」とは禁じられているものをあこがれること、情欲、欲望です。みことばをいくつか見てみましょう。I ペテロ 1：14 「従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、」、2：11 「愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」、II ペテロ 1：4 「その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」、2：10 「汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそうなのです。彼らは、大胆不敵な、尊大な者たちで、栄誉ある人たちをそして、恐れるところがありません。」、2：18 「彼らは、むなしい大言壮語を吐いており、誤った生き方をしている、ようやくそれをのがれようとしている人々を肉欲と好色によって誘惑し、」、3：3 「まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、」

このように性的なことだけでなく、この世的な考えや願望、世的な成功を望むことも含むのです。「人を蹴落としてでも出世したい」、「有名になって、また金持ちになって人から羨まれるようになりたい」、「何でも欲しい物を手に入れたい、自慢したい」というようなことです。

・救われた後＝神のみこころのために過ごします。神に喜ばれる人生を生きるのです。

「神のみこころ」は、

(a) 神の定まった計画があること：歴史上の出来事がそれを表わします。

(b) みことばの中の教え：神のくださったみことばが神のみこころです。

(c) みことばに示されていないことに関して：私たちが日々の生活に為す選択に、神は一人一人のうちにみこころを教えてくださいます。それは神のご意志、みこころと一致します。なぜなら、みこころはその人のうちに働かれるからです。

「過ごすようになる」とは、新しい生き方、すなわち、肉に従って生きるのではなく、神との関係において生きるという事実を強調するのです。

救われている人の特徴：

(a) みこころを行なう＝神のみこころに従って生きてゆきます。マタイ 12：50には「天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」とあり、I ヨハネ 2：17には「世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。」と書かれています。

また、マタイ 7：21では「わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。」とイエスは教え、II コリント 5：15でパウロは「また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」と教えるのです。

ペテロもまた「神のみこころのために過ごすようになる」と教えます。

みこころを行なう人＝みこころを行ないたいと願い、考え、選択しようとしている人です。

ローマ 12：2にあるとおり、「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」と、このように生きようとしている人です。